

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370107801		
法人名	センチュリー岡山		
事業所名	グループホーム 福治の里 (Aユニット)		
所在地	岡山市東区福治733		
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370107801-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 8 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「縁あって出会い、温もりをもって接し、お互いの絆が深まり、笑顔が生まれる福治の里(縁温絆笑)」をモットーとし、利用者個々の尊厳を大切に安心した生活が送れ、「満足」していただける介護をめざしている。誠意ある介護(心の介護)をめざして自己研鑽に努め、利用者とのより良い信頼関係の構築に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

扉を開けた瞬間、利用者全員が、パツと明るい表情を投げかけ、大きな声の挨拶と蔓延の笑顔をもって歓迎の暖かい空気が漂ってきた。居室・お風呂・トイレの評価確認している間も、背に熱い視線を感じ、あたかもレッドカーペットを歩いているような温かい気持ちも運んでくれた。看取り後に悲しくて泣き崩れる職員に対して、「泣くくらいなら、泣かないよう精一杯介護すべき！」と介護の重責を促す管理者と、自分がして頂いたら嬉しいことを幼少期に戻った感覚で表現し、横に座っただけでもほっと安心できる雰囲気醸し出している介護者がそこにいた。利用者をツツツとつついたり、背中をくすぐったり、あえて駄々をこねたりして、心を引き出すことで、真の家族となり、信頼関係を育み続けている。共通項は、利用者の笑顔を生むことだと職員は知っていて、常に模索している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時の研修で理念の理解を確認している。また、職員は笑顔と感謝の気持ちを持って入居者と接している。	玄関に理念を掲示し、職員に周知を図っている。フロアに入ると、入居者と職員全員が大きな明るい挨拶で出迎えてくれ、理念の実践が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止対策実施中のため、幼稚園児、学童、地域の方々の来園などは見合わせていますが、広報誌などで情報交換は継続しており、地域の方々と入居者の交流がスムーズに再開できるように、働きかけをしている。	毎月、地域のケアマネジャーや医療機関、運営推進会議・請求書・本部に配布する広報紙の作成を続ける事で、リアルに会える日に備え、楽しみながら役割(お仕事)を担って頂く配慮もしている。職員と一緒に事業所周辺の自然の中の散歩やごみ捨てで、地域の関わりを保っている。	職員が、もっと地域へ出向いては如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域、近隣施設など新型コロナウイルス感染防止対策実施中のため、利用者との交流は、見合わせているが、地域の方々、近隣施設との交流再開に向けて体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの動向、入居者の状況や施設の取り組みを報告し、家族のニーズの把握に努めている。書面会議を利用して広く家族からの要望等をお聞きし、情報交換の場としている。(R2年度は書面会議を4回実施)	コロナ禍で書面会議に切り替えても殆どの方が意見を表明してくれている。参加者は、公民館職員や地域包括、家族、地主、民生委員、自治会長の様な方で隔月に開催している。参加者の意見から、入居要件等の素朴な疑問をおさらいし、コロナ禍に於ける面会の仕方等を学び合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター担当者、公民館職員に運営推進会議への参加をいただき地域の情報・状況について連絡・協力を密にしている。行政機関とも関係は密にしている。	管理者が窓口となっている。行政からの最新情報は、専らメールで得られる様になったので、タイムリーに職員の皆と共有を図っており、然るべき時に然るべき人に向けて説明責任を果たせる体制を整えようと努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉・玄関は施錠せず(閉鎖は自由)職員間の連携により、充実した見守りを行うことで園内を自由に散策できるようにしている。委員会の設置、マニュアルを策定し職員の周知を図り実施している。	身体拘束はせず、毎月、身体拘束委員会を開き、ヒヤリハットの対策や検証やスピーチロックを含めた目に見える拘束と目に見えない形の拘束の勉強に力を入れている。職員に拘束とは？といった様なアンケートを取るスタイルで多角的に拘束というものの概念の気づきを得ようとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で委員会・マニュアルの設置、研修などの取り組みをしており、職員全員の周知徹底を図っている。勉強会は職員自身の提供しているケアを見つめ直す機会としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する法人内研修や県社協などが主催する研修に参加できる体制はあるが、集合する研修は中止となり、参加者による伝達研修に変更が生じたが、設内研修計画に揚げて実施し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章・口答により説明し、理解・納得を得ている。また、自己評価結果、外部評価結果を説明するとともに、開示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時・来所時にはコミュニケーションを持ち意見・要望の収集に努め、家族会、意見箱などからも広く意見・要望などを求めケアに反映できるよう努めている。	家族のドア越しや窓越しの面会時や来所時に意見を聞き取り、日ごろのケアのさりげない場面でも意見や要望を確認している。自粛生活が続いた事で、帰宅願望が増えた様に感じたり、イライラが募りつつある状態を先んじて、利用者のストレスが緩和出来る様にイベントを盛り込んだりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ユニット会議で意見交換の場を設けている。また、必要時は臨時カンファレンスを実施している。	毎月行う会議の中で、意見や提案を確認している。また、年2回、処遇改善に伴う個別面談を実施している。最近では、猛暑対策も相まって、イベント気分で昼食をテイクアウトしたところ、とても好評で完食した。何かトライする時に大切にしている事は『お互いにリスペクト出来ればGO！』	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・アセスメント・面談などの機会を確保し各自の意見・要望を把握している。また、技術・知識向上の為、研修参加の機会を設けている。個々の得意分野をレクリエーションなどに反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価・アセスメント・面談などの機会を利用し、個々の得意分野の把握に努めている。個々の希望する研修に参加できる環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の行事、研修会参加、近隣施設との交流などの機会を持つことが難しい状況もあり、広報誌等で情報収集に努め、サービス・知識・質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接等で、本人や家族より生活歴・趣味・嗜好等の情報収集に努め、スムーズなコミュニケーションによりニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴しニーズをお聞きし、できるだけ要望に近づけられるよう話し合いの場を持ち理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望者には、入居前に体験利用の機会を設けて、できる事できない事、困っている事などを把握しケアに生かせるよう心がけている。 (入居前体験者 1名)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を重んじ、共同生活を送っている。家庭的な雰囲気大切にしながら、役割を持った生活を重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族を交えたカンファレンスの実施。 広報誌や毎月のカレンダー(写真同封)の送付等で日々の様子などの連絡を行っている。、行事などへの参加案内は、コロナ禍のためできていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に外出の機会をもて本人の願いがかなえられるような働きかけを行い、家族の協力、理解を得て希望するところへの外食、外出できるように支援する体制は整っている。	リアルに出かけられる体制は、いつでも整えている。感染対策を充分に行った上で、職員と一緒に実家に荷物を取りに行く。はがきや手紙を出したりするなど、馴染みの関係が途切れない様に支援している。自宅に帰ったり受診のついでに周辺のドライブを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同制作等においては、職員は個々の有する能力を理解・把握し取り組んでいる。座席にも留意し食事、お茶の時間には同席をして会話を楽しむようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の施設を訪問したり、転居先のケアマネとの連携を保つようになっている。また、退居後家族の訪問により近況方向を受けることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の来所時、本人との会話時・生活の中から希望・思いを知り、できる限り思いに添えるように努めている。また、家族、本人を含めたケアカンファレンスを実施して直接、思いを聞く機会を設けている。	日頃からさりげなく言葉かけをする事で、暮らしの希望等について把握している。利用者の表情や仕草から汲み取ったり、カンファレンスの中で家族や利用者から話を聞いたりもしている。利用者をツンツンとついたり背中をくすぐったりする事で、スキンシップが保たれて特別な関係が生まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴は、本人・家族・ケアマネなどから情報収集してフェイスシートに記載し職員間で情報を共有している。また、新たな情報はその都度、追加記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・各チェックリストから日々の心身状態を把握して、注意事項・統一事項など情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族を交えたカンファレンスを実施し要望・意向などをケアプランに反映させている。また、課題解決に向けて、職員間でも何が必要なのか、どうしたら実現できるか話し合いながら継続性のあるプランを作成している。	利用者や家族との日ごろの会話を聞いて、主治医や理学療法士等、専門職からの意見やアイデアもプランに反映している。毎月のケア会議で、利用者の望む暮らしを実現するのに、アセスメントから推論を重ねて、プランを手渡すまでに個別性を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌内に各自の1日の流れ・特変事項等を記載し、個人記録内に1日の様子・ケアプランに基づいた実践状況などを記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時モニタリングをしてニーズの把握・情報収集に努めている。 体調や希望に応じて、サービス内容や時間などを変更して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止対策実施中のため、地域ボランティア(美容室・演芸など)の受け入れ、パン販売などの訪問・地域行事・祭りなどへ参加は見合わせているが、再開の準備はできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設協力医への、変更についての意向確認を契約時に行い、適切な医療が提供できる体制作りをしている。随時、関係者と連携をとり受診・往診対応を行っている。異常時は協力医療機関・希望医療機関への迅速な対応をしている。	かかりつけ医は選べるが、殆どの方が入居時に協力医に転院される。かかりつけ医とは、いつでも連絡・相談できる体制であり、主治医が訪問した際は、各担当職員も一緒に立会いしている。専門医は家族対応とし、看護師でもある管理者を軸とした適切な医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置があり、適宜、相談・報告をし異常の早期発見・対応に努めている。また、医療面での指導・助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、情報提供書を作成してスムーズな入院生活が送れるよう支援している。医療機関・家族との連携を図り、病状・様子の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取り介護について入居時に説明、意向の確認をしている。重度化した際には、家族・医師・管理者が話し合いを行い、家族の要望に沿って対応するように努め支援している。看取り介護の経験がある。(昨年度看取り 1例)	入居時に、重度化や終末期に向けた方針を説明し、同意書を交わしている。重度化した場合は、利用者・家族・主治医・管理者で話し合い、医療方針を決めている。例えば、看取りを終えた後に、いつまでも泣いている職員には「亡くなって泣くのならば、普段から悔いない様にケアしよう！」と職員の精神的成長を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を実施し、マニュアル作成している。緊急時の対応・連絡先などは一覧表を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者参加の実践的な避難訓練を(2回以上/年)予定・実施し避難経路の周知を図っている。また、担当消防署より資料を提供してもらうなど協力を頂いている。	年2回、昼夜想定のもと、利用者も参加して避難訓練を実施している。また、水害と火災の訓練を実施している。何かと協力的な地主が隣に住んでおり、住まいを避難場所として提供して頂ける様になっている。備蓄・備品が2日分在る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修の項目としても取り上げ、居室に入る時はノック・声かけを行い了解を得るようにしている。また、面会者来所時は基本的に居室対応してプライバシーの確保に努めている。	呼称は、原則、苗字に「さん」を付ける。ノックをして居室に入ったり、居室内で更衣をして頂いたりして利用者のプライバシーや尊厳に配慮している。居室でポータブルトイレを使う方には、頭が見える高さのパテーションを使い、様子も分かる形式をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中での会話・表情から思いを感じ取りできる限り実現できるように支援している。外出(祭り・1日旅行など)の企画は、自身の希望によって参加できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、個々の体調・希望に合わせて、個別対応している。レクリエーションは個別・数人で行う物など数種類からの選択ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装を自身で選択できるように選択肢を持った支援している。髭剃り・整髪は、声かけ・介助などにより実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(食材下処理・テーブル拭き)・片付け(下膳・洗い物)など声かけをしてお手伝い頂き、食事時間を制限せず、個々のペースで食事を楽しんでもらっている。	三食・おやつ共に全て手作りで、利用者の食べたい物をメニューに反映している。敷地内で採れたトマト・胡瓜・ゴーヤ等が食卓に上る日もある。また、庭の大きな桜の木の下で花見やバーベキューをしたり、お弁当の日を設けたり、ビュッフェ形式で食事をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節メニュー・盛り付けなど内容・形態に工夫を凝らしている。水分・食事摂取量が少ない方は、個別表で詳細な把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった物品を使用し、自身でできる方は声かけをして、介助の必要な方は義歯の洗浄など口腔内の清潔保持を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表により把握し、誘導時間に反映させている。誘導、見守り、介助など個々に合わせた支援を行っている。	個々の排泄パターンをチェック表から利用者に合わせて支援をしている。昼夜共にトイレを使う様に努めており、どうしても必要な人だけポータブルを使う。また、週2回排便出来る様に目標を立て、パットなどの小物の使い方を工夫する事で、利用者への爽快感とケアのし易さの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫、水分補給に努め、体操、散歩など運動不足の解消を図っている。また、排便目標を2回/週として、排泄チェック表を利用し個々に応じた調節をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日課としては、午後入浴が基本だが、希望時、必要時などは、時間帯を限らず随時入浴支援している。入浴を拒否する方には、毎日、入浴の声掛けをして、入浴できるように取り組んでいる。	週2~3回の入浴支援を基本としており、希望に合わせて入浴回数を増やせる様に体制を整えている。入浴した方毎に、お湯は入れ替える。シャワー浴の方には、足湯をセットで組み合わせて、出来るだけ入浴に近い効果が得られる様に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを崩さないようにそれぞれの時間に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録内に薬の説明書をファイルしており、いつでも確認できるようにしている。服薬確認には、工夫を凝らし誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業(洗濯・洗物・下処理など)を共にしたり、レクリエーションは1名から数名単位で実施するものと数種類(貼り絵・ボール遊び・塗り絵など)を提供し、好むものに参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策実施中のため、地域行事への参加、買い物などの外出はできていないが、可能な限り同行また、本人の思いを家族に伝え協力いただき、実現できるように支援していく体制は整っている。	何より本気で遊ぶことを考えており、それを土台に散歩やドライブを楽しんでいるので、当てもなくドライブに出かけても笑顔や感激を得ている。頻りに散歩や庭先に出て日常的に外出を支援している。廊下を隔てた2ユニットを週に一度行き来する事も、すっかり日常の外出の一部となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には現金、財布を所持して各自の欲しい物が購入できるように、家族の了解を得て支援できる体制がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に随時対応している。 年賀状を希望者と共に作成し、家族・知人に郵送された入居者の方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを心がけ、回想を促せる物を配置したり、動きのある物、季節を感じられる物を作成している。共有スペースでは入居者同士のトラブルがないように、常に職員間の声かけ見守りを行っている。	天然木を活かした天井の高い平屋は採光も豊かで、ホール内は、行事で撮った写真や利用者で作成した作品が、ほのかに温かみを感じさせる。芝の手入れの行き届いた中庭も清々しさを感じ、とても居心地よい。敷地内やフロアや庭は、皆が散歩したり、お茶をしたり出来る様にして、楽しい雰囲気づくりや過ごしやすい環境に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話やレクリエーションなど数人で過ごしたり個々の好みの場所を職員は把握しており、読書など目的に合った過ごし方を工夫して快適な空間を提供できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好む家具、使い慣れた道具類を、家族の協力を得て配置したり、写真やカレンダーなどで工夫をしている。仏壇や遺影を配置している利用者もある。	どの部屋からも樹々が間近に見えて落ち着く。利用者は、馴染み調度品や仏壇、家族写真、ぬいぐるみ等を持ち込み、思い思いに我が家を催している。100歳を迎えられた方の部屋には、職員手作りの誕生日色紙がディスプレイされ、静かに見守っていた。	外部環境に触れることで、気付きを持って居室の環境整備や健康管理に心配りが出来る職員の感性をさらに磨いては如何でしょうか？
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に即した補助器具(コール・足元灯)などを活用し、残存機能を生かした支援をしている。事故防止委員会を1回/月開催し、安全点検を実施して危険箇所の改善をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370107801		
法人名	センチュリー岡山		
事業所名	グループホーム 福治の里 (Bユニット)		
所在地	岡山市東区福治733		
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370107801-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 8 月 3 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「縁あって出会い、温もりをもって接し、お互いの絆が深まり、笑顔が生まれる福治の里(縁温絆笑)」をモットーとし、利用者個々の尊厳を大切に安心した生活が送れ、「満足」していただける介護をめざしている。誠意ある介護(心の介護)をめざして自己研鑽に努め、利用者とのより良い信頼関係の構築に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

扉を開けた瞬間、利用者全員が、パツと明るい表情を投げかけ、大きな声の挨拶と蔓延の笑顔をもって歓迎の暖かい空気が漂ってきた。居室・お風呂・トイレの評価確認している間も、背に熱い視線を感じ、あたかもレッドカーペットを歩いているような温かい気持ちも運んでくれた。看取り後に悲しくて泣き崩れる職員に対して、「泣くくらいなら、泣かないよう精一杯介護すべき！」と介護の重責を促す管理者と、自分がして頂いたら嬉しいことを幼少期に戻った感覚で表現し、横に座っただけでもほっと安心できる雰囲気醸し出している介護者がそこにいた。利用者をツツツとつついたり、背中をくすぐったり、あえて駄々をこねたりして、心を引き出すことで、真の家族となり、信頼関係を育み続けている。共通項は、利用者の笑顔を生むことだと職員は知っていて、常に模索している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時の研修で理念の理解を確認している。また、職員は笑顔と感謝の気持ちを持って入居者と接している。	玄関に理念を掲示し、職員に周知を図っている。フロアに入ると、入居者と職員全員が大きな明るい挨拶で出迎えてくれ、理念の実践が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止対策実施中のため、幼稚園児、学童、地域の方々の来園などは見合わせていますが、広報誌などで情報交換は継続しており、地域の方々と入居者の交流がスムーズに再開できるように、働きかけをしている。	毎月、地域のケアマネジャーや医療機関、運営推進会議・請求書・本部に配布する広報紙の作成を続ける事で、リアルに会える日に備え、楽しみながら役割(お仕事)を担って頂く配慮もしている。職員と一緒に事業所周辺の自然の中の散歩やごみ捨てで、地域の関わりを保っている。	職員が、もっと地域へ出向いては如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域、近隣施設など新型コロナウイルス感染防止対策実施中のため、利用者との交流は、見合わせているが、地域の方々、近隣施設との交流再開に向けて体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの動向、入居者の状況や施設の取り組みを報告し、家族のニーズの把握に努めている。書面会議を利用して広く家族からの要望等をお聞きし、情報交換の場としている。(R2年度は書面会議を4回実施)	コロナ禍で書面会議に切り替えても殆どの方が意見を表明してくれている。参加者は、公民館職員や地域包括、家族、地主、民生委員、自治会長の様な方で隔月に開催している。参加者の意見から、入居要件等の素朴な疑問をおさらいし、コロナ禍に於ける面会の仕方等を学び合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター担当者、公民館職員に運営推進会議への参加をいただき地域の情報・状況について連絡・協力を密にしている。行政機関とも関係は密にしている。	管理者が窓口となっている。行政からの最新情報は、専らメールで得られる様になったので、タイムリーに職員の皆と共有を図っており、然るべき時に然るべき人に向けて説明責任を果たせる体制を整えようと努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉・玄関は施錠せず(開閉は自由)職員間の連携により、充実した見守りを行うことで園内を自由に散策できるようにしている。委員会の設置、マニュアルを策定し職員の周知を図り実施している。	身体拘束はせず、毎月、身体拘束委員会を開き、ヒヤリハットの対策や検証やスピーチロックを含めた目に見える拘束と目に見えない形の拘束の勉強に力を入れている。職員に拘束とは？といった様なアンケートを取るスタイルで多角的に拘束というものの概念の気付きを得ようとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で委員会・マニュアルの設置、研修などの取り組みをしており、職員全員の周知徹底を図っている。勉強会は職員自身の提供しているケアを見つめ直す機会としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する法人内研修や県社協などが主催する研修に参加できる体制はあるが、集合する研修は中止となり、参加者による伝達研修に変更が生じたが、設内研修計画に揚げて実施し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章・口答により説明し、理解・納得を得ている。また、自己評価結果、外部評価結果を説明するとともに、開示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時・来所時にはコミュニケーションを持ち意見・要望の収集に努め、家族会、意見箱などからも広く意見・要望などを求めケアに反映できるよう努めている。	家族のドア越しや窓越しの面会時や来所時に意見を聞き取り、日ごろのケアのさりげない場面でも意見や要望を確認している。自粛生活が続いた事で、帰宅願望が増えた様に感じたり、イライラが募りつつある状態を先んじて、利用者のストレスが緩和出来る様にイベントを盛り込んだりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ユニット会議で意見交換の場を設けている。また、必要時は臨時カンファレンスを実施している。	毎月行う会議の中で、意見や提案を確認している。また、年2回、処遇改善に伴う個別面談を実施している。最近では、猛暑対策も相まって、イベント気分で昼食をテイクアウトしたところ、とても好評で完食した。何かトライする時に大切にしている事は『お互いにリスペクト出来ればGO！』	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・アセスメント・面談などの機会を確保し各自の意見・要望を把握している。また、技術・知識向上の為、研修参加の機会を設けている。個々の得意分野をレクリエーションなどに反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価・アセスメント・面談などの機会を利用し、個々の得意分野の把握に努めている。個々の希望する研修に参加できる環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の行事、研修会参加、近隣施設との交流などの機会を持つことが難しい状況もあり、広報誌等で情報収集に努め、サービス・知識・質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接等で、本人や家族より生活歴・趣味・嗜好等の情報収集に努め、スムーズなコミュニケーションによりニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴しニーズをお聞きし、できるだけ要望に近づけられるよう話し合いの場を持ち理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望者には、入居前に体験利用の機会を設けて、できる事できない事、困っている事などを把握しケアに生かせるよう心がけている。 (入居前体験者 1名)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を重んじ、共同生活を送っている。家庭的な雰囲気大切にしながら、役割を持った生活を重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族を交えたカンファレンスの実施。 広報誌や毎月のカレンダー(写真同封)の送付等で日々の様子などの連絡を行っている。、行事などへの参加案内は、コロナ禍のためできていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に外出の機会をもて本人の願いがかなえられるような働きかけを行い、家族の協力、理解を得て希望するところへの外食、外出できるように支援する体制は整っている。	リアルに出かけられる体制は、いつでも整えている。感染対策を充分に行った上で、職員と一緒に実家に荷物を取りに行く。はがきや手紙を出したりするなど、馴染みの関係が途切れない様に支援している。自宅に帰ったり受診のついでに周辺のドライブを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同制作等においては、職員は個々の有する能力を理解・把握し取り組んでいる。座席にも留意し食事、お茶の時間には同席をして会話を楽しむようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の施設を訪問したり、転居先のケアマネとの連携を保つようになっている。また、退居後家族の訪問により近況方向を受けることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の来所時、本人との会話時・生活の中から希望・思いを知り、できる限り思いに添えるように努めている。また、家族、本人を含めたケアカンファレンスを実施して直接、思いを聞く機会を設けている。	日頃からさりげなく言葉かけをする事で、暮らしの希望等について把握している。利用者の表情や仕草から汲み取ったり、カンファレンスの中で家族や利用者から話を聞いたりもしている。利用者をツンツンとついたり背中をくすぐったりする事で、スキンシップが保てて特別な関係が生まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴は、本人・家族・ケアマネなどから情報収集してフェイスシートに記載し職員間で情報を共有している。また、新たな情報はその都度、追加記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・各チェックリストから日々の心身状態を把握して、注意事項・統一事項など情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族を交えたカンファレンスを実施し要望・意向などをケアプランに反映させている。また、課題解決に向けて、職員間でも何が必要なのか、どうしたら実現できるか話し合いながら継続性のあるプランを作成している。	利用者や家族との日ごろの会話を聞いて、主治医や理学療法士等、専門職からの意見やアイデアもプランに反映している。毎月のケア会議で、利用者の望む暮らしを実現するのに、アセスメントから推論を重ねて、プランを手渡すまでに個別性を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌内に各自の1日の流れ・特変事項等を記載し、個人記録内に1日の様子・ケアプランに基づいた実践状況などを記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時モニタリングをしてニーズの把握・情報収集に努めている。 体調や希望に応じて、サービス内容や時間などを変更して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止対策実施中のため、地域ボランティア(美容室・演芸など)の受け入れ、パン販売などの訪問・地域行事・祭りなどへ参加は見合わせているが、再開の準備はできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設協力医への、変更についての意向確認を契約時に行い、適切な医療が提供できる体制作りをしている。随時、関係者と連携をとり受診・往診対応を行っている。異常時は協力医療機関・希望医療機関への迅速な対応をしている。	かかりつけ医は選べるが、殆どの方が入居時に協力医に転院される。かかりつけ医とは、いつでも連絡・相談できる体制であり、主治医が訪問した際は、各担当職員も一緒に立会いしている。専門医は家族対応とし、看護師でもある管理者を軸とした適切な医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置があり、適宜、相談・報告をし異常の早期発見・対応に努めている。また、医療面での指導・助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、情報提供書を作成してスムーズな入院生活が送れるよう支援している。医療機関・家族との連携を図り、病状・様子の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取り介護について入居時に説明、意向の確認をしている。重度化した際には、家族・医師・管理者が話し合いを行い、家族の要望に沿って対応するように努め支援している。看取り介護の経験がある。(昨年度看取り 1例)	入居時に、重度化や終末期に向けた方針を説明し、同意書を交わしている。重度化した場合は、利用者・家族・主治医・管理者で話し合い、医療方針を決めている。例えば、看取りを終えた後に、いつまでも泣いている職員には「亡くなって泣くのならば、普段から悔いない様にケアしよう！」と職員の精神的成長を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を実施し、マニュアル作成している。緊急時の対応・連絡先などは一覧表を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者参加の実践的な避難訓練を(2回以上/年)予定・実施し避難経路の周知を図っている。また、担当消防署より資料を提供してもらうなど協力を頂いている。	年2回、昼夜想定のもと、利用者も参加して避難訓練を実施している。また、水害と火災の訓練を実施している。何かと協力的な地主が隣に住んでおり、住まいを避難場所として提供して頂ける様になっている。備蓄・備品が2日分在る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修の項目としても取り上げ、居室に入る時はノック・声かけを行い了解を得るようにしている。また、面会者来所時は基本的に居室に対応してプライバシーの確保に努めている。	呼称は、原則、苗字に「さん」を付ける。ノックをして居室に入ったり、居室内で更衣をして頂いたりして利用者のプライバシーや尊厳に配慮している。居室でポータブルトイレを使う方には、頭が見える高さのパテーションを使い、様子も分かる形式をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中での会話・表情から思いを感じ取りできる限り実現できるように支援している。外出(祭り・1日旅行など)の企画は、自身の希望によって参加できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、個々の体調・希望に合わせて、個別対応している。レクリエーションは個別・数人で行う物など数種類からの選択ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装を自身で選択できるように選択肢を持った支援している。髭剃り・整髪は、声かけ・介助などにより実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(食材下処理・テーブル拭き)・片付け(下膳・洗い物)など声かけをしてお手伝い頂き、食事時間を制限せず、個々のペースで食事を楽しんでもらっている。	三食・おやつ共に全て手作りで、利用者の食べたい物をメニューに反映している。敷地内で採れたトマト・胡瓜・ゴーヤ等が食卓に上る日もある。また、庭の大きな桜の木の下で花見やバーベキューをしたり、お弁当の日を設けたり、ビュッフェ形式で食事をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節メニュー・盛り付けなど内容・形態に工夫を凝らしている。水分・食事摂取量が少ない方は、個別表で詳細な把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった物品を使用し、自身でできる方は声かけをして、介助の必要な方は義歯の洗浄など口腔内の清潔保持を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表により把握し、誘導時間に反映させている。誘導、見守り、介助など個々に合わせた支援を行っている。	個々の排泄パターンをチェック表から利用者に合わせて支援をしている。昼夜共にトイレを使う様に努めており、どうしても必要な人だけポータブルを使う。また、週2回排便出来る様に目標を立て、パットなどの小物の使い方を工夫する事で、利用者への爽快感とケアのし易さの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫、水分補給に努め、体操、散歩など運動不足の解消を図っている。また、排便目標を2回/週として、排泄チェック表を利用し個々に応じた調節をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日課としては、午後入浴が基本だが、希望時、必要時などは、時間帯を限らず随時入浴支援している。入浴を拒否する方には、毎日、入浴の声掛けをして、入浴できるように取り組んでいる。	週2~3回の入浴支援を基本としており、希望に合わせて入浴回数を増やせる様に体制を整えている。入浴した方毎に、お湯は入れ替える。シャワー浴の方には、足湯をセットで組み合わせて、出来るだけ入浴に近い効果が得られる様に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを崩さないようにそれぞれの時間に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録内に薬の説明書をファイルしており、いつでも確認できるようにしている。服薬確認には、工夫を凝らし誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業(洗濯・洗物・下処理など)を共にしたり、レクリエーションは1名から数名単位で実施するものと数種類(貼り絵・ボール遊び・塗り絵など)を提供し、好むものに参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策実施中のため、地域行事への参加、買い物などの外出はできていないが、可能な限り同行また、本人の思いを家族に伝え協力いただき、実現できるように支援していく体制は整っている。	何より本気で遊ぶことを考えており、それを土台に散歩やドライブを楽しんでいるので、当てもなくドライブに出かけても笑顔や感激を得ている。頻りに散歩や庭先に出て日常的に外出を支援している。廊下を隔てた2ユニットを週に一度行き来する事も、すっかり日常の外出の一部となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には現金、財布を所持して各自の欲しい物が購入できるように、家族の了解を得て支援できる体制がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に随時対応している。 年賀状を希望者と共に作成し、家族・知人に郵送された入居者の方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを心がけ、回想を促せる物を配置したり、動きのある物、季節を感じられる物を作成している。共有スペースでは入居者同士のトラブルがないように、常に職員間の声かけ見守りを行っている。	天然木を活かした天井の高い平屋は採光も豊かで、ホール内は、行事で撮った写真や利用者で作成した作品が、ほのかに温かみを感じさせる。芝の手入れの行き届いた中庭も清々しさを感じ、とても居心地よい。敷地内やフロアや庭は、皆が散歩したり、お茶をしたり出来る様にして、楽しい雰囲気づくりや過ごしやすい環境に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話やレクリエーションなど数人で過ごしたり個々の好みの場所を職員は把握しており、読書など目的に合った過ごし方を工夫して快適な空間を提供できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好む家具、使い慣れた道具類を、家族の協力を得て配置したり、写真やカレンダーなどで工夫をしている。仏壇や遺影を配置している利用者もある。	どの部屋からも樹々が間近に見えて落ち着く。利用者は、馴染み調度品や仏壇、家族写真、ぬいぐるみ等を持ち込み、思い思いに我が家を催している。100歳を迎えられた方の部屋には、職員手作りの誕生日色紙がディスプレイされ、静かに見守っていた。	外部環境に触れることで、気付きを持って居室の環境整備や健康管理に心配りが出来る職員の感性をさらに磨いては如何でしょうか？
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に即した補助器具(コール・足元灯)などを活用し、残存機能を生かした支援をしている。事故防止委員会を1回/月開催し、安全点検を実施して危険箇所の改善をしている。		